様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　5 月　31 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009～2011
課題番号：21720203
研究課題名（和文）　英語でのコミュニケーションを目的とする学習動機減退要因の質的・量的研究
研究課題名（英文）Demotivators in Communicative English Classes: A Qualitative and Quantitative Study
研究代表者
菊地　恵太（KIKUCHI KEITA）
東海大学・外国語教育センター・講師
研究者番号：20434350

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は、大学英語教育におけるコミュニケーションを目的とする英語学習に関しての学習動機を減退させる要因の特定化であった。聞き取り調査、質問紙調査の中で従来の先行文献で取り上げられてきた要素が学習動機を減退させる要因として英語でのコミュニケーションを目的とする授業でも認識されていることが確認された。また、聞き取り調査の中で学習動機を減退させうる要因も学習者の動機構造によっては、強く影響しないことがわかり、動機構造と学習動機を減退させる要因に関して継続的調査の必要性が認識された。

研究成果の概要（英文）：
In this study, various demotivators were studied in communicative English classes at the tertiary level in Japan. In short, the result of the study utilizing both qualitative and quantitative methods indicated that demotivators identified in former studies were also found to be demotivators in communicative English classes. It was also found that longitudinal research is needed to study the complex nature of learners' motivation structure as there may be many internal/external factors involved.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2009 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2010 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2011 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 2,500,000 | 750,000 | 3,250,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：動機付け　外国語としての英語学習　英語コミュニケーション

## １．研究開始当初の背景

Dornyei (2001)により、動機減退要因が外国語教育において重要な研究課題であると取り上げられられてきてから、近年特に日本国内でも様々な研究が行われてきた(Arai, 2004; Falout and Maruyama, 2004; Falout, Elwood amd Hood, 2009; Hasegawa, 2004; Kikuchi, 2009; Kikuchi and Sakai, 2009; Ikeno, 2002; Kojima, 2004; Sakai and Kikuchi, 2009;Tsuchiya, 2004a, 2004b,

2006a, 2006b)..。筆者も Kikuchi (2009)で聞き取り調査を行い、(1)教室における教師の言動、(2)文法や翻訳に特化した授業、(3)テストや大学入試に起因するもの、(4)語彙を覚えることなど記憶力に関しての問題、(5)教科書、参考書に起因するものの５つを日本人英語学習者の動機減退要因として確認した。例えば、英語を日常的に使用する必要性がないということや難しい読解問題を読めることを主に問うている大学英語入試がその要因の幾つかであり、また多くの学習者が教師の彼らに対する態度、教科書の丸暗記や毎日の語彙テストなどの多くの記憶を課す指導形態をやる気をなくす原因として強く認識していた。

また、その後に行った大学生 112 名を対象にした質問紙調査(Kikuchi and Sakai, 2009)や、同様の質問紙を使用した高校生 676 名を対象にした調査(Sakai and Kikuchi, 2009)の中で高等学校での英語の授業の中で(1)教室における教師の言動、(2)文法や翻訳に特化した授業、(3) クラス環境、(4) 教科書、参考書に起因するもの、(5) 劣等感を持った経験、(6)内的興味を失ったこと　の６つの要因が学習動機減退要因となることを確認した。

なお、こうした先行研究は、高校での英語の授業に関して高校生・大学生への聞き取り調査・アンケートに基づいたものであった。

本研究課題では、大学での発信型英語教育というコンテクストにおいて、どのような要因が学習動機減退要因となりうるのかを調査することとした。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、大学英語教育におけるコミュニケーションを目的とする英語学習に関しての学習動機を減退させる要因の特定化であった。近年の社会的状況の変化の中で大学卒業までに外国語コミュニケーション力をつけさせることが議論されているが、その中でどのような要因が逆に学習者の動機を減退化させるのかを調査し、インタビューを中心とする質的方法、構造方程式モデリングを中心とする量的研究法の双方を用い、モデル構築し、現場での指導に役立てる学習動機の減退に配慮したコミュニケーション活動のためのガイドづくりを目標とした。

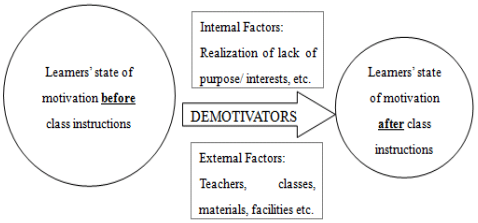
## ３．研究の方法

本研究の主目的である(1)大学レベルでの様々な英語学習意欲を阻害する要因の特定化, (2)大学レベルでのコミュニケーションを目的とした英語学習への意欲を阻害する要因の特定化を調査するため、大学レベルにおいてコミュニケーションを目的とする英語授業を受講している大学生に対する聞き取り調査、アンケート調査を行った。

その上で主にコミュニケーションを目的とする英語学習意欲を阻害する要因を考慮した指導に関する研究書/マニュアル執筆のために文献研究を行った。また、国内外の学会や大学院において研究発表、ワークショップを行い、その妥当性・実用性に関してさらに現場の先生方や動機付けに関しての研究者と意見をの交換を行った。また最終年度には研究結果に基づき、イギリスに出向き、Ema Ushioda 博士(University of Warick)と Zoltan Dornyei 博士 (University of Nottingham)に、研究指導を受けた。

## ４．研究成果

本研究の主な成果として端的に言えば、英語学習意欲を減退させる要因に関して様々な学習者の意見・捉え方を理解できたことである。量的分析の中で(1)教室における教師の言動、(2)文法や翻訳に特化した授業、(3)クラス環境、(4) 教科書、参考書に起因するもの、(5) 劣等感を持った経験、(6)内的興味を失ったこと、(7)　テストなどといった学習者の動機減退要因は大学のコミュニケーションを目的とする英語教育においても学習者にとって動機を減退させうるものとして認識されていることが明らかになった。また、コミュニケーションを目的とする英語授業においては多くの学習者から授業の雰囲気、周りの受講生の取り組み方などが特に重要な要因であることが明らかになった。




上記の図が、以上の点を視覚的にまとめたものである。左の円から右の円に向かって学習者が経験する学習動機減退要因を矢印で示した。なお、左の円より右の円を小さく示し、冒頭に述べた７つの学習動機減退要因などにより学習意欲が減退する状況を表した。

また、英語学習意欲を減退させる要因に配慮する場合、受講生とよい関係を築く、教室にコミュニケーションをとりやすいような雰囲気をつくる、学習者同士のグループ活動を促進する、細かい目標設定をさせる、活動の単調さや学習者が成功体験をできるかどうかに配慮してレッスンを構成する、などといったいわゆる動機付けを高めるストラテ

ジー(ドルニェイ, 2005)で挙げられているような事柄に教員が配慮することが重要であることがあらためてこの研究を通してわかった。学習動機の減退に配慮したコミュニケーション活動のためのガイドやハンドブック作成の上でこういった点を調査結果と様々な文献に基づき、整理した。

なお、調査の中で高校英語での授業とは異なり、教師や受講生同士で英語で話すといった活動が多くなるため、特に(3)のクラス環境に関して日本人同士がわざわざ英語でコミュニケーションをするといった活動を積極的に促すような要素の欠如、他の受講生のやる気のなさなど高校英語での動機減退要因では現れてこなかった要素が指摘された。

しかしその一方、聞き取り調査の中で学習意欲を減退させる要因の概念的問題点に関して何人かの大学生から指摘があった。例えば、もともと学習動機の高い学習者に関しては様々な英語学習意欲を減退させる要因に直面しても少し気持ちが沈むが、すぐに立ち直るといった捉え方が複数の学習者から聞き取り調査の中で出てきた。そのような学習者にとって学習動機というものは外的要因によってそれほど変化しないという指摘があった。例えば、テストの結果が悪かったなどの英語学習意欲を減退させうる要因は一時的に気持ちに変化を与えるが、すぐによい成績をとろうといった気持ちになるなどといった声も聞かれた。冒頭に示した学習動機が減退する様を表した図に基づいて鑑みると一旦小さくなる円もすぐに風船のようにまた大きくなるといったことも頻繁に起こるであろうことが理解できた。

なお、学習動機のもともと低い学習者にとっては様々な英語学習意欲を減退させる要因に関しても「特に気にならない」といった声も聞かれ、学習動機の高さ・低さといった視点とは別に英語学習意欲を減退させる要因に対してのセンシティビティーといった概念も今後研究の必要があることが明らかになった。

本研究により今後の英語学習に関する学習意欲減退要因の研究においてまず、従来の縦断的アンケート調査では捉えにくい要素が多いことが明らかになり、横断的アンケート調査や継続的聞き取り調査の応用が不可欠であるということがわかった。このことは、様々な研究発表やワークショップの中で多くの研究者、先生方とも意見交換をした点であり、本研究の今後の国内外の研究へのインパクトも高いかと思われる。

本研究の特色の一つである質的・量的研究方法の双方を用いたことにより、従来のアンケート調査の中では、なかなか知見として捉えにくかった英語学習意欲を阻害する要因とその効果が学習者により異なり、また学習に対する積極的な取り組みにつながるといったことも明らかであることが示唆された。

今後の展望としては先に述べたように英語学習意欲を減退させる要因とその要因を経験した後に学習者がどのようなことからまた学習動機を高めることができるのか、あるいはそのまま学習意欲を失ったままになってしまうかなど英語学習意欲を減退させる要因に関連する様々な要素を調査することの重要性を挙げたい。

もちろん先に述べた動機付けを高めるストラテジーに配慮したコミュニケーション活動も学習者の内的要因や授業外で経験する様々な要素が複雑に関係し、すべての学習者にとって有益なものとは限らない。例えば、大学入学前の受験勉強の影響で精神的に疲れ、入学後、なかなか大学での授業に積極的に収集できない・関われない、といった事柄も調査の中で学習者から指摘された。そういった要因で学習意欲が減退している学習者の学習意欲に配慮するのはシンプルではないであろう。研究者自身も今後の研究の中でこの例に挙げた事柄のようにどのような要素が学習者の学習意欲の高揚・減退に影響するかを調査していきたいと考えている。

また、Dornyei (2012)に指摘されているように今後の動機付け研究では、学習動機高揚要因・減退要因といった要素の特定化からさらに一歩深めて授業内外の様々な出来事、要素がどのように日々の学習動機に関わっているかを長期的な視点から調査することも重要であろう。本研究では、アンケートや聞き取り調査を継続的に行うことはできなかった。しかし、例えば１年かといった期間の間にどのような要素が複雑に学習者の動機構造に関わっているのかを調査することは今後の研究課題として興味深いであろう。

以上に挙げた点に関して筆者自身も引き続き調査するとともに多くの研究者、先生方と積極的に意見交換を今後もすすめていきたい。その上で、コミュニケーションを目的とする英語学習意欲を阻害する要因を考慮した指導に関する研究書/マニュアル執筆を近日中に完成させたいと考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計４件）
(1)
発表者：菊地　恵太
発表題目：Exploring demotivators in CLT in Japan
学会名：全国語学教育学会　第３６回国際年次大会
発表年月日：2010 年 11 月 21 日

発表場所：愛知県産業労働センター

(2)
発表者：Keita Kikuchi
発表題目：Lack of Ideal L2 Self and Demotivation in ELT in Japan
学会名：JALT CUE Conference 2012
発表年月日：２０１１年７月３日
発表場所：東洋学園大学

(3)
発表者：Keita Kikuchi
発表題目：Demotivators in EFL classrooms: the flip side of motivation
学会名：16th World Congress of Applied Linguistics
発表年月日：２０１１年８月２５日
発表場所：北京外国語大学

(4)
発表者：Keita Kikuchi
発表題目：Demotivators within ELT contexts
学会名：English Language Learning, Teaching, and Assessment, Centre for Applied Linguistics
発表年月日：２０１２年２月２９日
発表場所：University of Warwick

６．研究組織
(1)研究代表者
菊地　恵太（KIKUCHI KEITA）
東海大学・外国語教育センター・講師
研究者番号：20434350